

れば、この十五日に決るとして、楽譜の版下、表紙絵、組、校正、の日を数へれば随分忙しいこと、存じます。今度の集りにこそは、二冊分が纏って、びっちり決まるやうになりたいと存じます。私も出来るだけ新らしいものも作り、スキートホームもスパニッシュダンスの歌詞も持って参りませう。何卒今度は澤山伺へるやうにお願いいたします。

歌詞原稿の中、「赤い林檎」と「夜話の後」は青年男女の歌とも民謡ともどっちつかずのようですが、そろそろそいふもの、習作として作ったものをそのま、お眼にかけます、御教示下さいますやうに。

赤い林檎

林檎を噛めばしみじみと

別れて遠い秋の夜の

薄いなさけが身にしみる

林檎の艶のさへぐくと
照る灯に夢は還るとも
悔いるともない心かよ

赤い林檎をまた一つ
載せて見つめるたなご、ろ

さんたくらうす

風が吹いてゐて (、)
お月夜で

母さま お留守の 戸口の扉

誰か来て、か 叩いてか

ことこと おかしな 音がする。

さんたくらうすの 小父さんか

そろ／＼寝ませうか (や)
また叩く